



# 中山道69次を歩く(7)

## 美濃入り、関ヶ原など巡る

美濃路に入ると、名古屋在住の

同期生や関ヶ原町在住の同期生が

参加するようになり、高校卒業以

来の積もる話で一段と楽しい。

第19回(11月26、27日)は加納

宿への物資の運搬で栄えた鏡島湊

跡を通り、橋を渡り、長良川の対

岸の河渡宿へ。長良川の渡して栄

えたが、水害に悩まされ、江戸後

期に幕府の援助で宿全体を盛り土

したとのこと。条里地割が残り、

き、美江寺宿へ。

美江寺宿は濃尾地震の震源に近

かったため、本陣をはじめとして、

ほとんどが倒壊した。唯一倒壊せ

ずに残った造り酒屋の建物は、今

も太い柱と梁が支えている。

大垣で宿泊し、翌日、赤坂宿に

向かう。杭瀬川の橋を渡った先に

ある赤坂港跡には立派な川燈台が

あり、昔の繁栄がしのばれる。

田んぼの中の街道を歩くと、雪

化粧した伊吹山が見えてきた。し

ばらく歩くと広大

な美濃国分寺跡。

相川を渡ると垂井

宿である。垂井の

泉は、今も清らか

な水がわき出して

いる。

第20回は今年最

初の旅。3月24日、

垂井から関ヶ原宿

に向かう。彼岸過

ぎというのに風が

強く寒い。

間の宿・野上

を過ぎると樹齢

300年の松並木



関ヶ原・笹尾山石田三成陣跡

がみごと。すぐ先の桃配山は関ヶ

原合戦の家康最初陣地である。

関ヶ原古戦場は、町の史跡ガイ

ドさんに案内をお願いした。石田

三成が陣を敷いた笹尾山、開戦地

の天満山、小早川軍の松尾山など、

実際に説明を聞いて、すつか

り関ヶ原合戦通になった。この日

は、関ヶ原宿でただ一つ営業して

いる旧旅館・枳屋に泊った。

翌日は、古い宿場の建物が所々

に残る街道を歩き、西の首塚で手

を合わせる。不破の関跡を過ぎ、

壬申の乱の戦場、藤古川を越える。

今須峠の手前には、常盤御前の墓。

墓前には生花が供えられている。

今須峠は、碓氷峠、和田峠など

幾つもの峠を越えてきた身には、

苦もなく越えられた。

今須宿のはずれあたりから雪交

じりの強い風に向かって歩く。美

濃、近江国境は50坪ほどの小川。

寝物語の里を通り、楓の巨木の

並木を過ぎると街道の中央に融雪

装置が埋められた柏原宿である。

江戸時代に吉原で「亀屋佐京の

切り艾」とCMソングを作った唄

わせ評判になったという伊吹堂は

今も営業している。

清水計枝(64期)

## 65期が初優勝 ゴルフ期別対抗戦



すさまじい低気圧が通り過ぎた翌日の

4月4日(水)、17回目のゴルフコンペ

が千葉CCC川間コースで開催された。54

期から69期までの精鋭47人が集い、出場

者数は過去最多。

当日は終日、冷たい風が吹き荒れ、厳しい条

件のなかでの熱戦となった。

結果、個人戦は森則雄さん(65期)がグロス

85、ネット67、5アンダーという好スコアで優

勝。準優勝は花房伸吉さん(54期)、3位に北

住不二男さん(63期)が続いた。ベスグロは池

田恵一さん(65期)がグロス84で獲得。

また、滝澤関東同窓会会長から贈られた、第

17代会長にちなむ「17位特別賞」は秋葉光廣さ

ん(55期)の手に。4人以上の参加者の期(7

チーム)で争われた期別対抗戦は、上位入賞者

(1、4、8位)を確保した65期が2位以下を大

きく引き離して初優勝を飾り、今回は65期の活

躍が目立つ結果となった。

プレー後のパーティーは参加者が多いため全

員のスピーチは無理で、入賞者と初参加者だけ

があいさつした。

次回コンペは10月30日(火)。場所は同じく

千葉CCC川間コースで開催の予定。

ゴルフ同好会幹事 上原昇(65期)